

世界のすきまに新たな世界を

# 2019年3月期 決算補足説明資料

2019年4月25日



**四国化成工業株式会社**

証券コード:4099

# 目次

会社プロフィール	… 3	キャッシュ・フロー概要(連結)	… 11
決算のポイント	… 4	設備投資額、減価償却費、研究開発費(連結)	… 12
損益構造推移(連結・通期)	… 5	業績予想(連結)	… 13
海外地域別売上高推移	… 6	セグメント別 売上高・利益	… 14～16
損益構造推移(連結・四半期)	… 7	化学品事業セグメント	… 17～18
損益計算書(連結・四半期)	… 8	建材事業セグメント	… 19～20
資産(連結)	… 9	[参考]製品概要	… 21～26
負債・純資産(連結)	… 10	[参考]中期経営計画2019	… 27～31

# 会社プロフィール

## ▼会社概要

- 商号 四国化成工業株式会社  
SHIKOKU CHEMICALS CORPORATION
- 設立 1947年(昭和22年)10月10日  
香川県丸亀市において、二硫化炭素の製造を目的に設立
- 主な事業 [化学品]無機化成品、有機化成品、ファインケミカル  
[建 材]内・外・舗装材、住宅エクステリア、景観エクステリア
- 研究、生産拠点 1研究所、7工場
- 事業所 [日本]2支社、11営業所 [海外]米国、中国(上海・深圳)、台湾、シンガポール
- 資本金 68億6,770万円
- 従業員数 連結 1,167人 単体 660人 (19年3月末)

## ▼株式

- 発行済株式総数 58百万株
- 株主総数 4,363名 (19年3月末)

## ▼関係会社

連結子会社〔日本：10社、海外：1社〕

SHIKOKU INTERNATIONAL CORPORATION	シコク景材(株)
日本硫炭工業(株)	シコク景材関東(株)
シコク環境ビジネス(株)	日本工機(株)
シコク分析センター(株)	シコク・システム工房(株)
シコク興産(株)	シコク・フーズ商事(株)
	シコク・フーズ保険サービス(株)

非連結子会社 1社  
四国化成(上海)貿易有限公司

# 決算のポイント

## ■ 連結経営成績

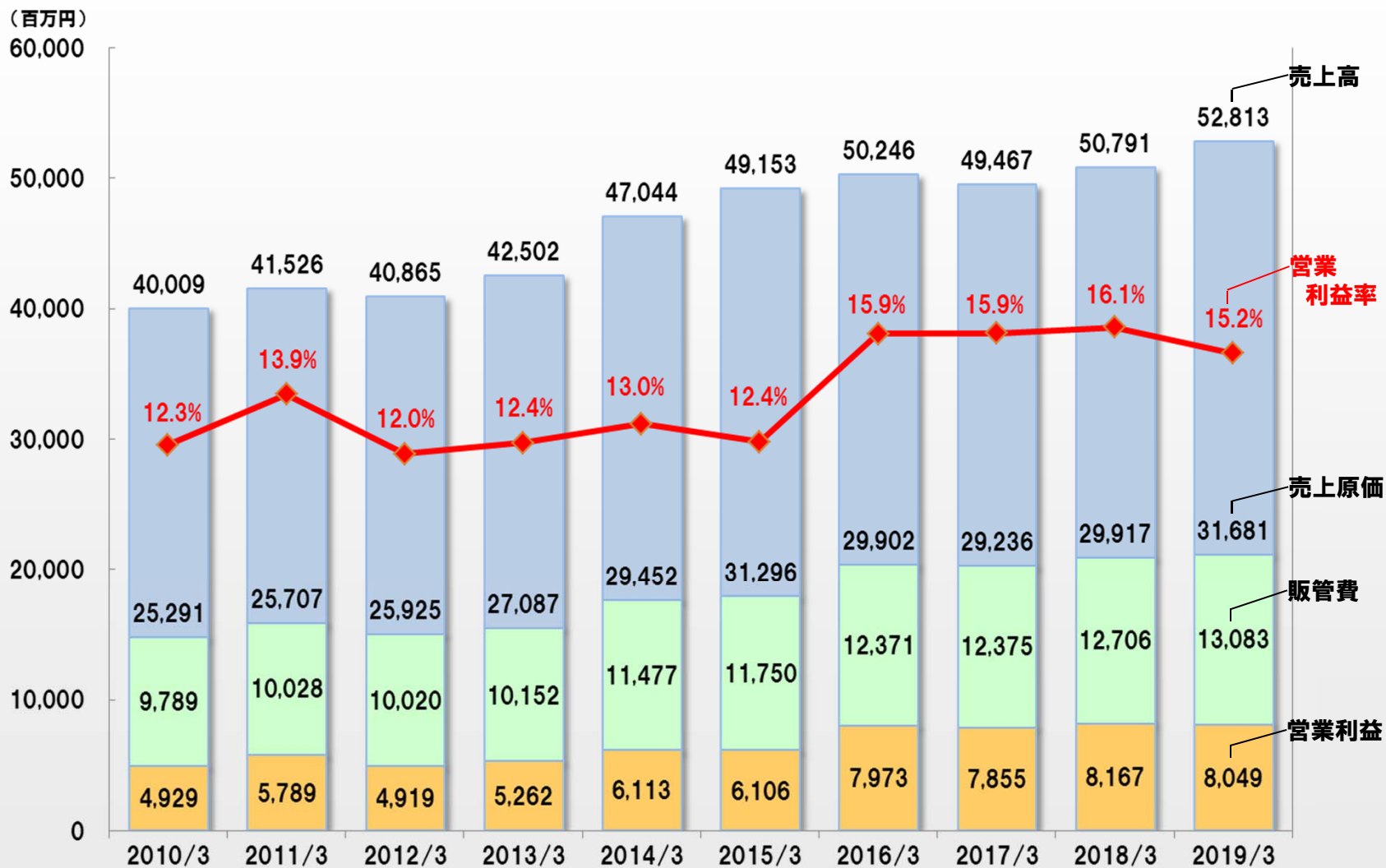
(百万円)

	2018/3		2019/3		増減額	増減率
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	50,791	100.0%	52,813	100.0%	2,022	4.0%
営業利益	8,167	16.1%	8,049	15.2%	▲ 118	▲ 1.4%
経常利益	8,450	16.6%	8,431	16.0%	▲ 19	▲ 0.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,610	13.0%	5,397	10.2%	▲ 1,213	▲ 18.4%
為替レート(円/US\$)	111		111			
為替レート(円/EUR)	128		129			

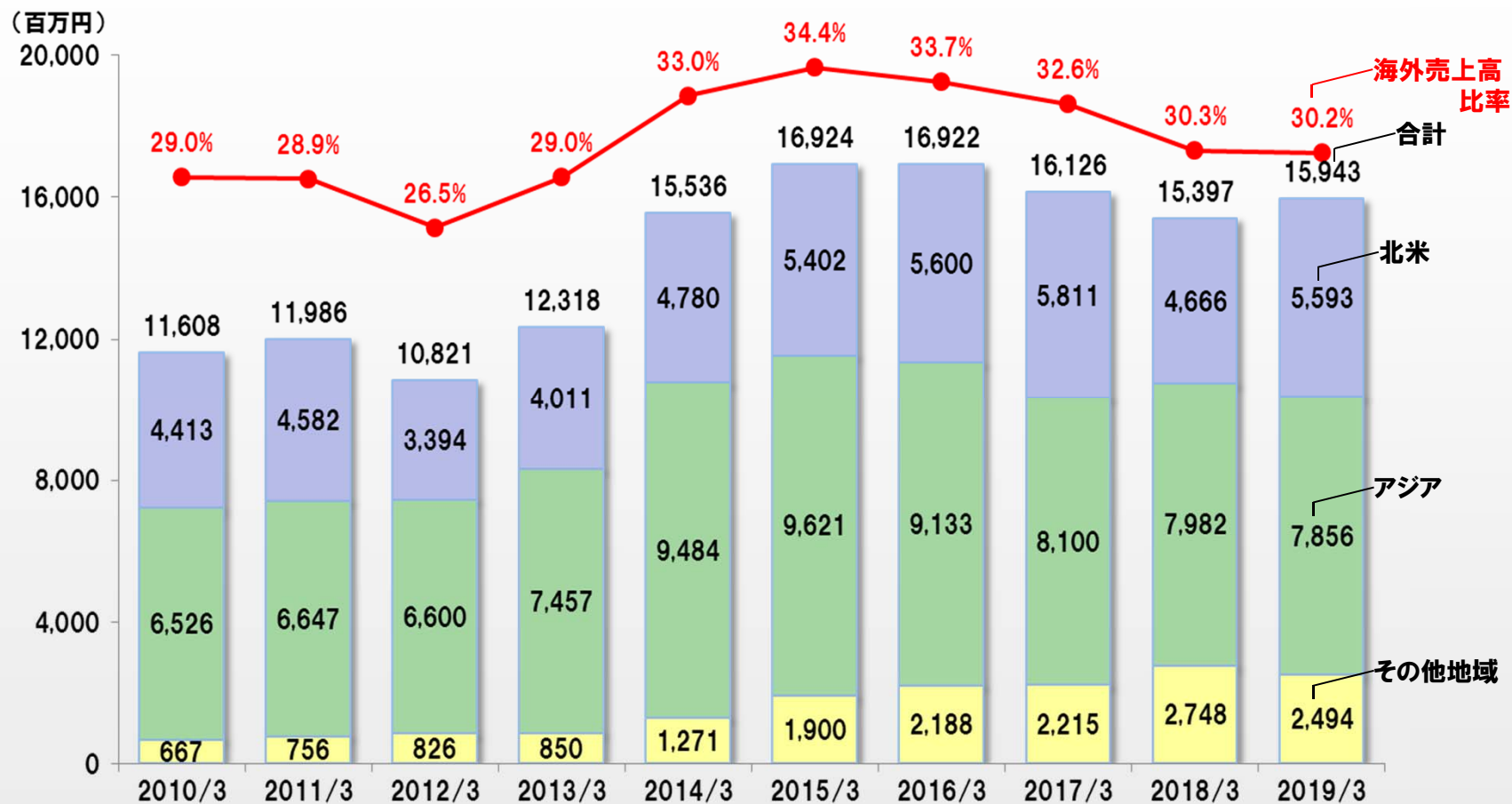
### ◆ 売上高が過去最高を更新

- ・ 化学品、建材事業ともに販売は前年の水準を上回り、売上高は前期比4.0%の増収。
- ・ 販売は好調に推移したものの、原材料費高騰等により、営業利益は前期比▲1.4%の減益。
- ・ 営業外損益で受取配当金が増加したものの、経常利益は前期比▲0.2%の減益。
- ・ 特別損益で投資有価証券評価損が発生し、当期純利益は前期比▲18.4%の減益。

# 損益構造推移 (連結・通期)

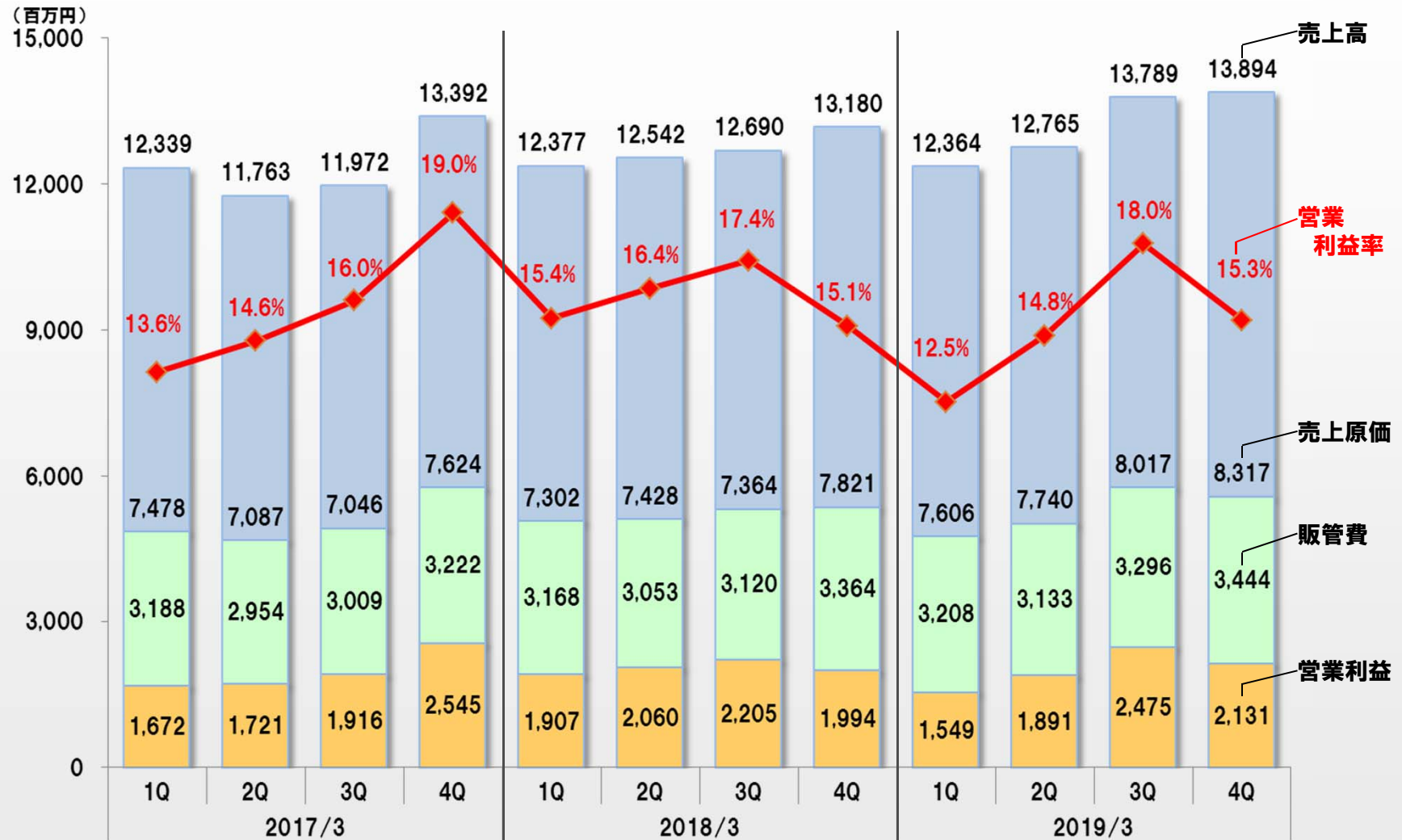


# 海外地域別売上高推移



為替レート(円/US\$)	93	86	79	82	100	109	121	108	111	111
為替レート(円/EUR)	132	114	110	106	132	139	133	120	128	129

# 損益構造推移 (連結・四半期)



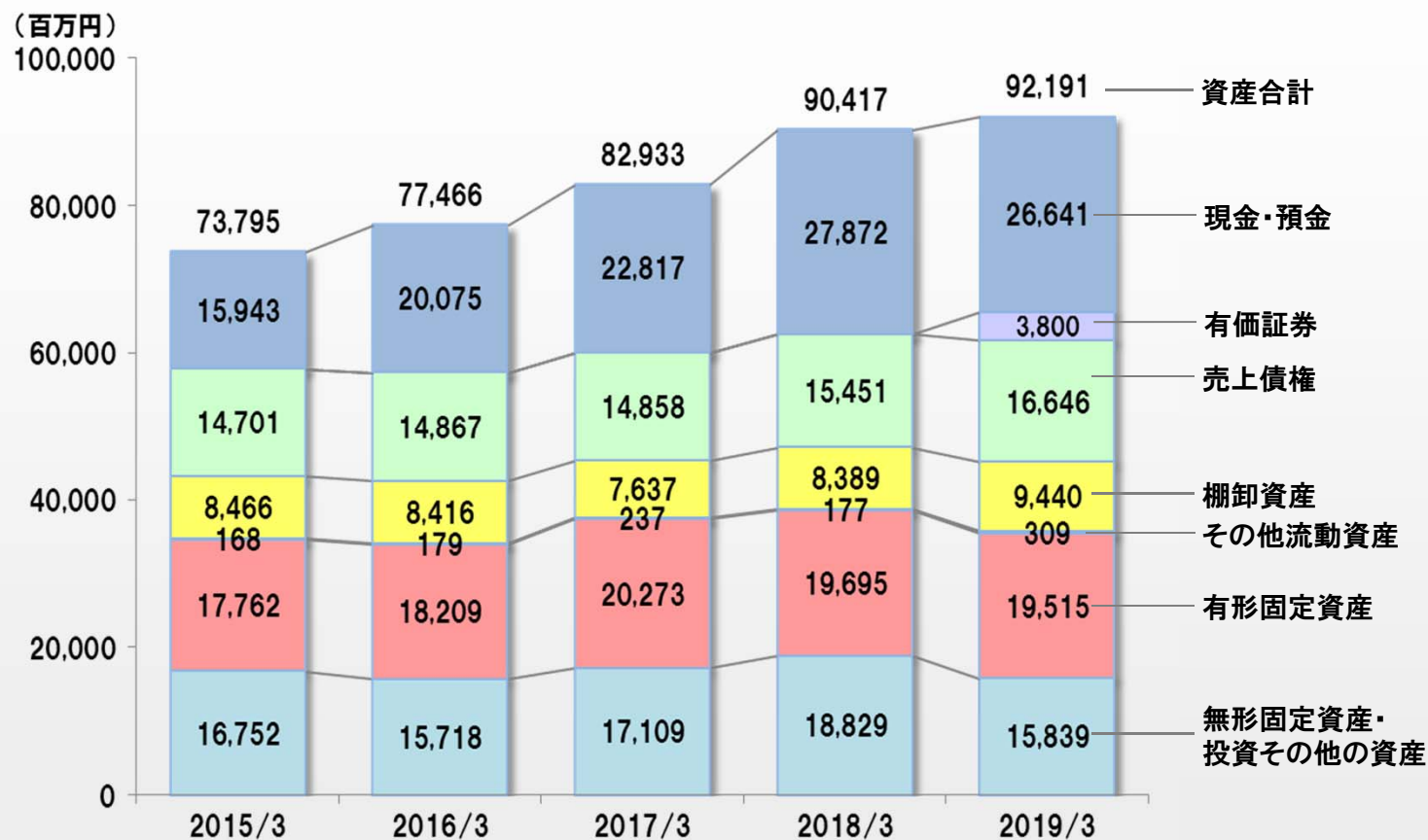
# 損益計算書 (連結・四半期)

(百万円)

	1Q実績		2Q実績		3Q実績		4Q実績		2019年3月期 通期実績	
		前年同期比 増減 (率)		前年同期比 増減 (率)		前年同期比 増減 (率)		前年同期比 増減 (率)		前年比増減 (率)
売上高	12,364	▲ 13 (▲0.1%)	12,765	223 (+1.8%)	13,789	1,098 (+8.7%)	13,894	713 (+5.4%)	52,813	2,022 (+4.0%)
営業利益	1,549	▲ 357 (▲18.7%)	1,891	▲ 168 (▲8.2%)	2,475	270 (+12.3%)	2,131	137 (+6.9%)	8,049	▲ 118 (▲1.4%)
経常利益	1,866	▲ 277 (▲12.9%)	1,879	▲ 201 (▲9.7%)	2,585	213 (+9.0%)	2,100	246 (+13.3%)	8,431	▲ 19 (▲0.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,234	▲ 189 (▲13.3%)	1,307	▲ 145 (▲10.0%)	1,794	159 (+9.7%)	1,061	▲ 1,037 (▲49.4%)	5,397	▲ 1,213 (▲18.4%)

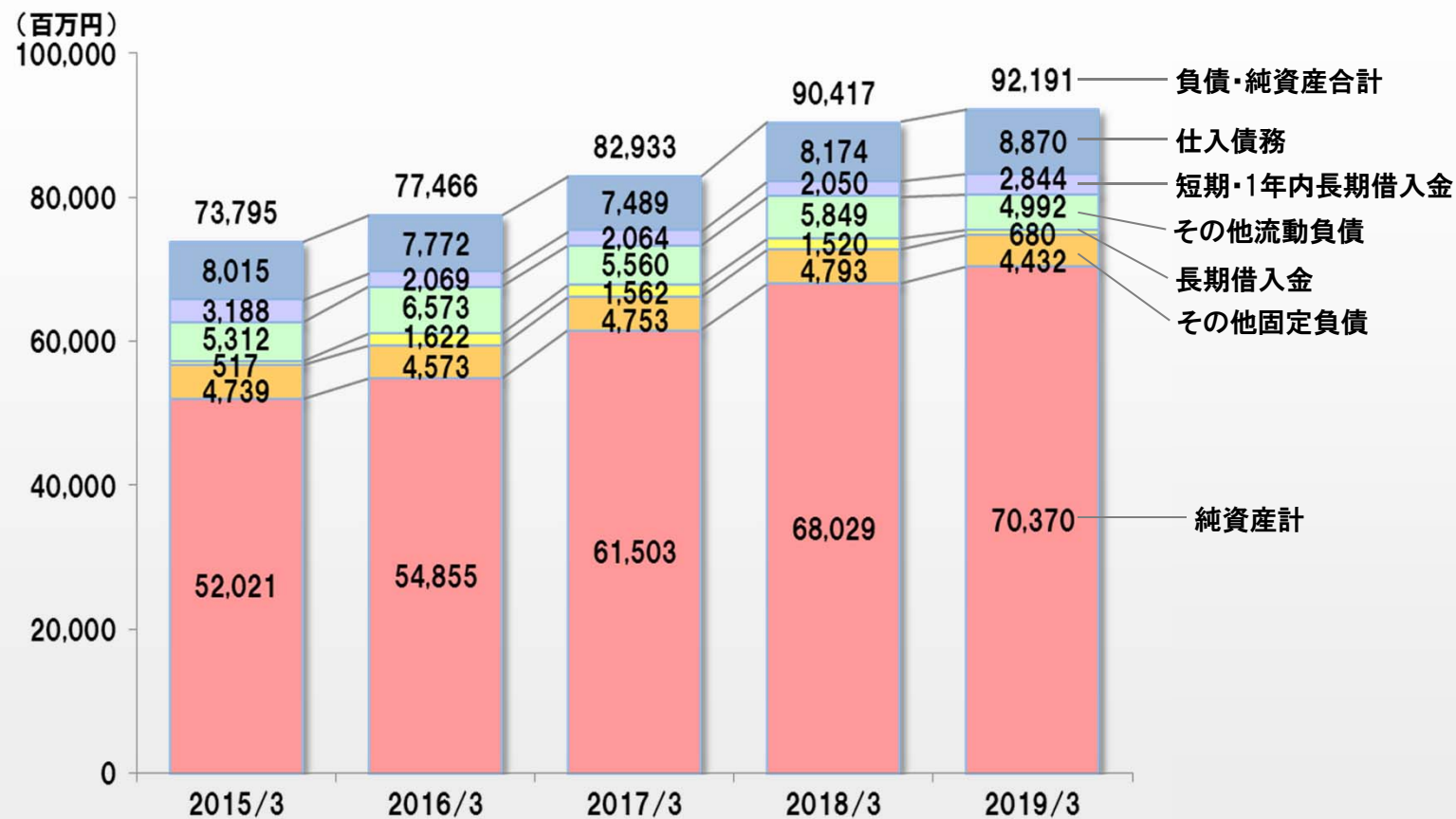


# 資産（連結）



ROA(%)	6.2%	6.4%	7.3%	7.6%	5.9%
--------	------	------	------	------	------

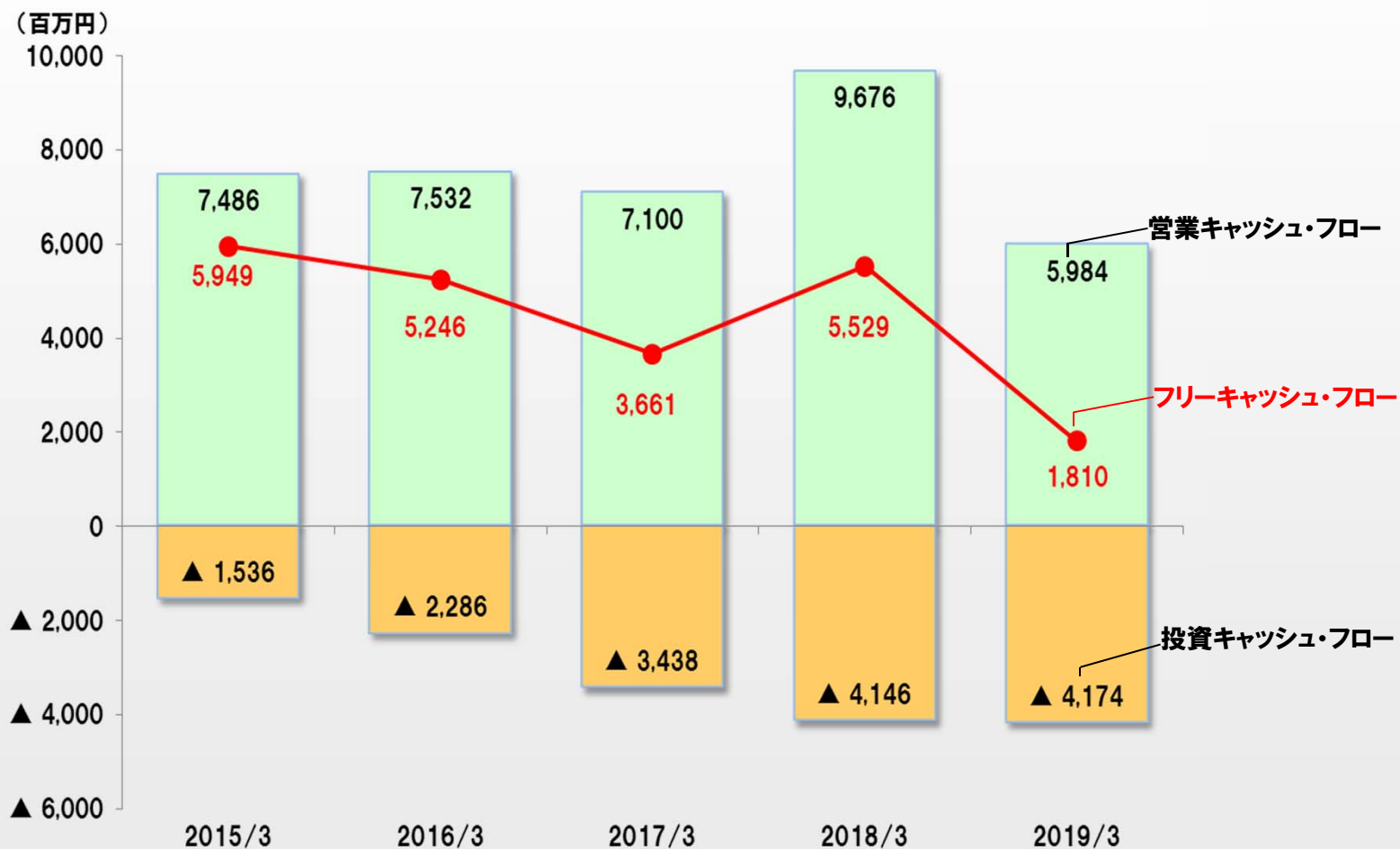
# 負債・純資産（連結）



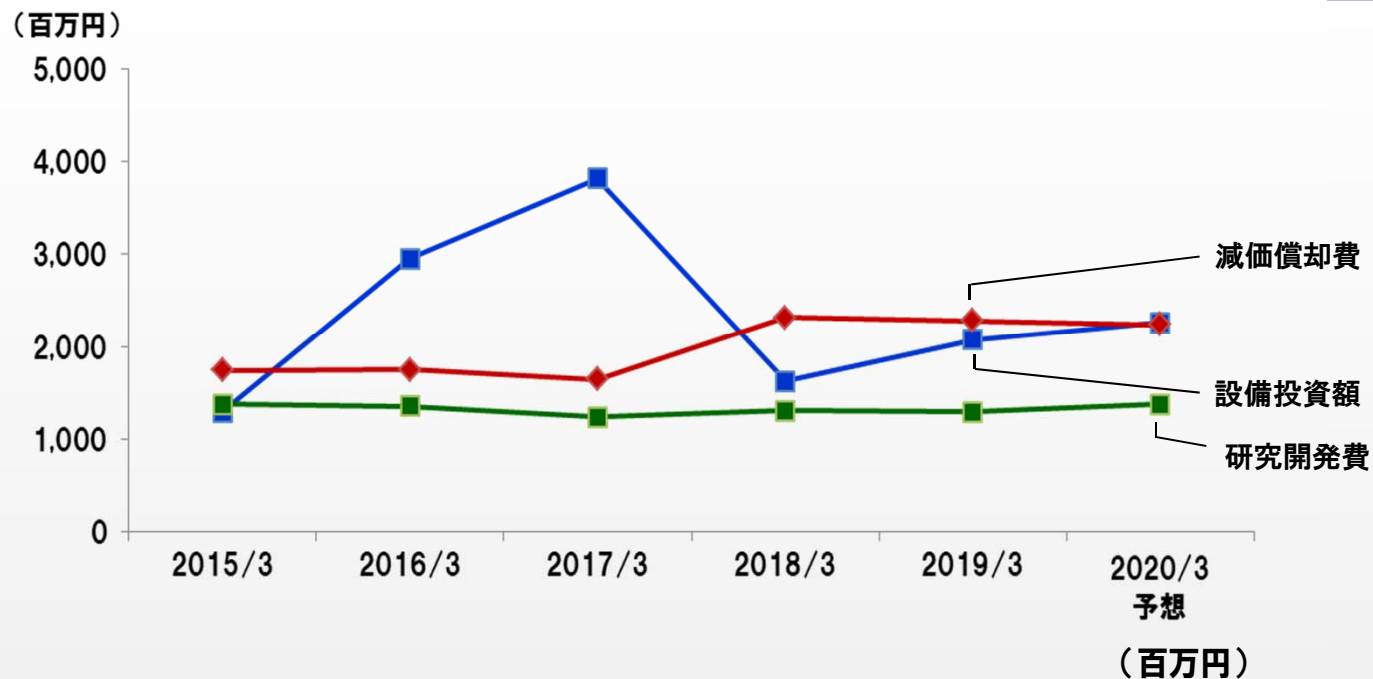
ROE(%)	9.0	9.2	10.1	10.3	7.9
有利子負債残高(百万円)	3,893	3,917	3,853	3,806	3,768
純有利子負債額(百万円)	▲ 12,050	▲ 16,158	▲ 18,963	▲ 24,066	▲ 22,872
自己資本比率(%)	69.8	70.0	73.4	74.4	75.5

# キャッシュ・フロー概要（連結）

- ◆ 堅調な利益の計上により、営業キャッシュ・フローを順調に獲得。
- ◆ 設備投資等を行ったものの、現金及び現金同等物は前期末比568百万円増加。



# 設備投資額、減価償却費、研究開発費（連結）



	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3 予想
設備投資額	1,296	2,952	3,815	1,628	2,073	2,265
減価償却費	1,743	1,747	1,645	2,318	2,282	2,239
研究開発費	1,379	1,358	1,235	1,310	1,295	1,378

# 業績予想（連結）

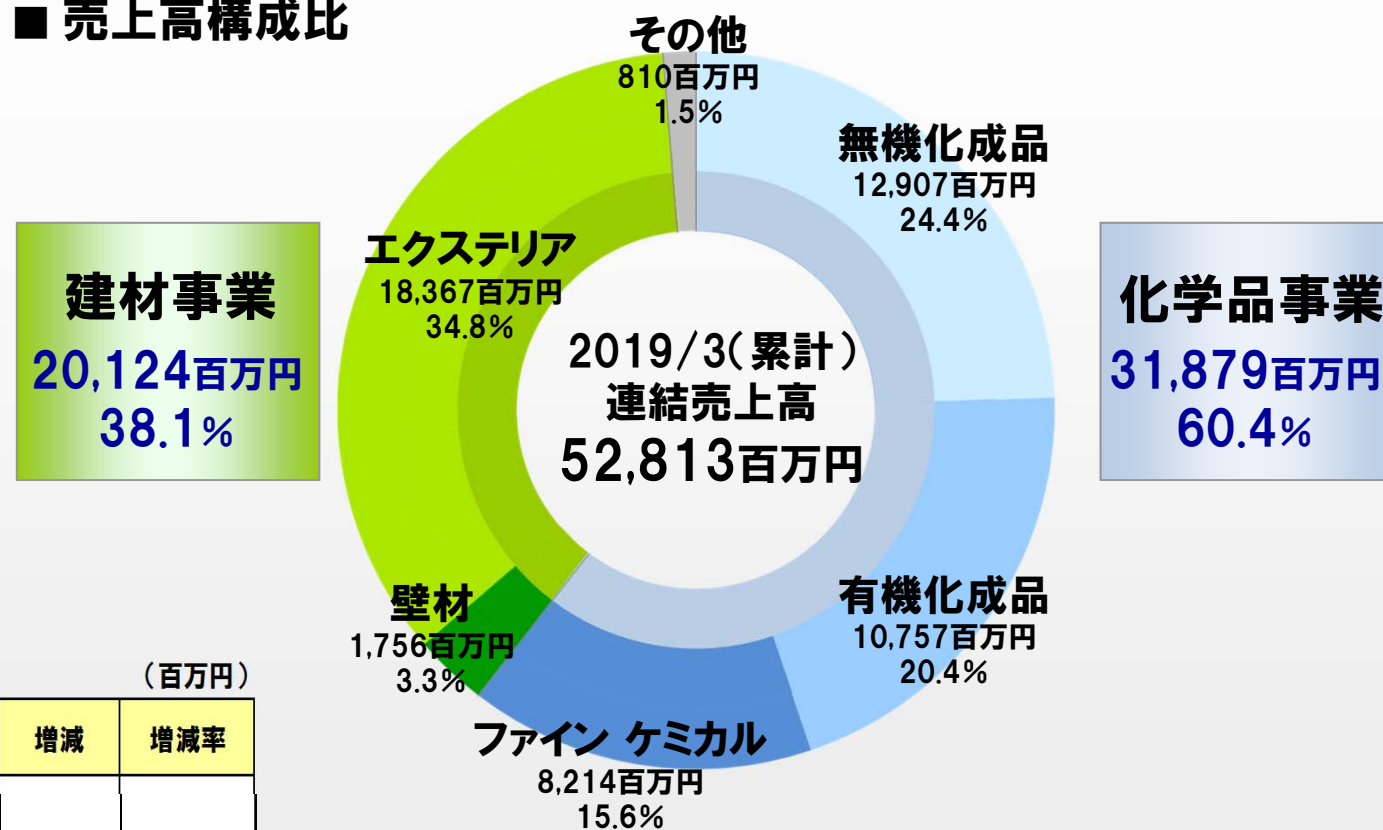
（百万円）

		2019/3	2020/3 （予想）	増減	増減率
売上高	上期	25,130	25,800	669	2.7%
	下期	27,683	27,700	16	0.1%
	通期	52,813	53,500	686	1.3%
営業利益	上期	3,441	3,400	▲ 41	▲ 1.2%
	下期	4,607	4,800	192	4.2%
	通期	8,049	8,200	150	1.9%
経常利益	上期	3,746	3,600	▲ 146	▲ 3.9%
	下期	4,685	4,900	214	4.6%
	通期	8,431	8,500	68	0.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	上期	2,541	2,400	▲ 141	▲ 5.6%
	下期	2,856	3,400	543	19.0%
	通期	5,397	5,800	402	7.5%

※ 想定為替レート：105円/米ドル、125円/ユーロ

# セグメント別 売上高・利益

## ■ 売上高構成比

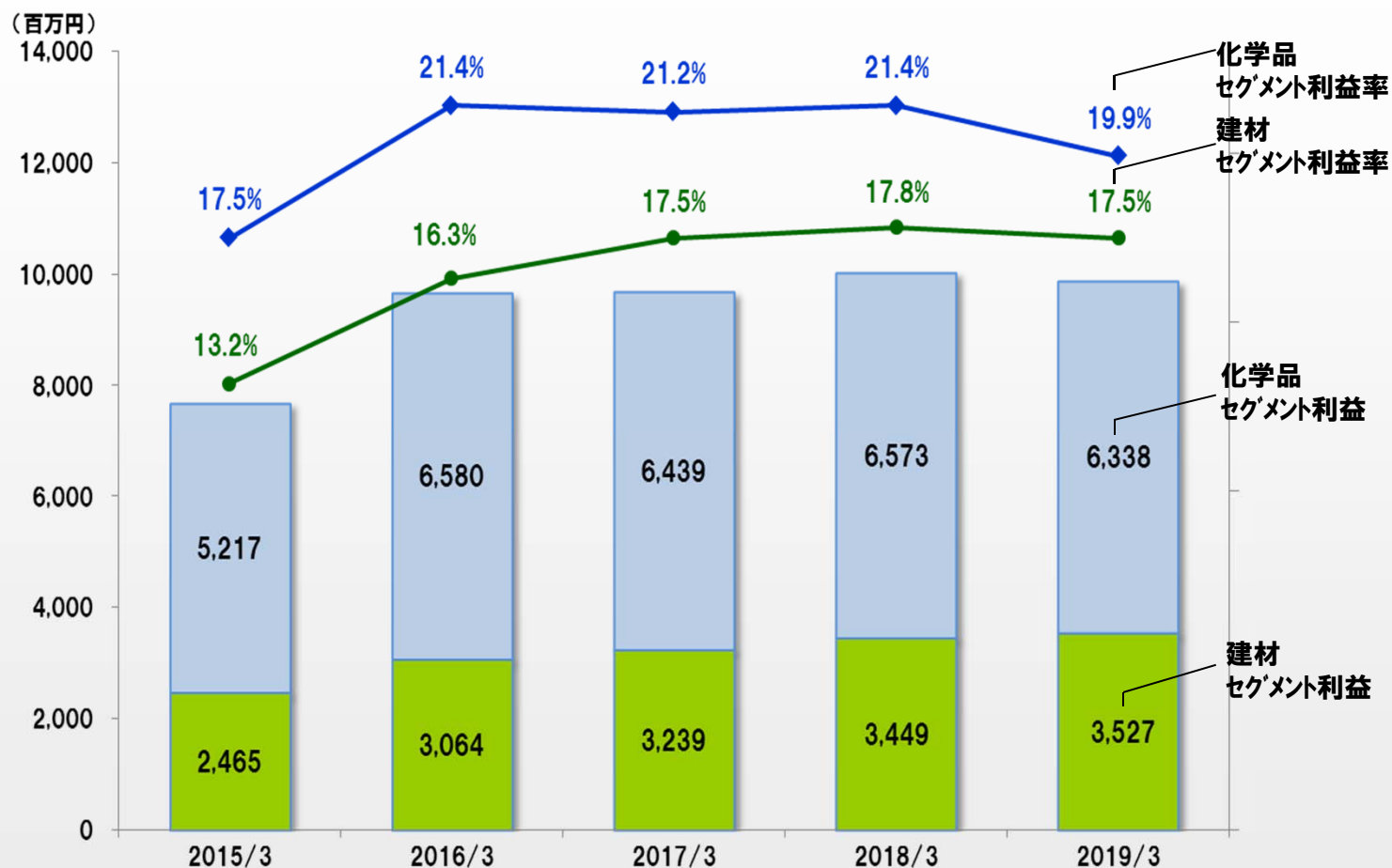


## ■ セグメント情報

(百万円)

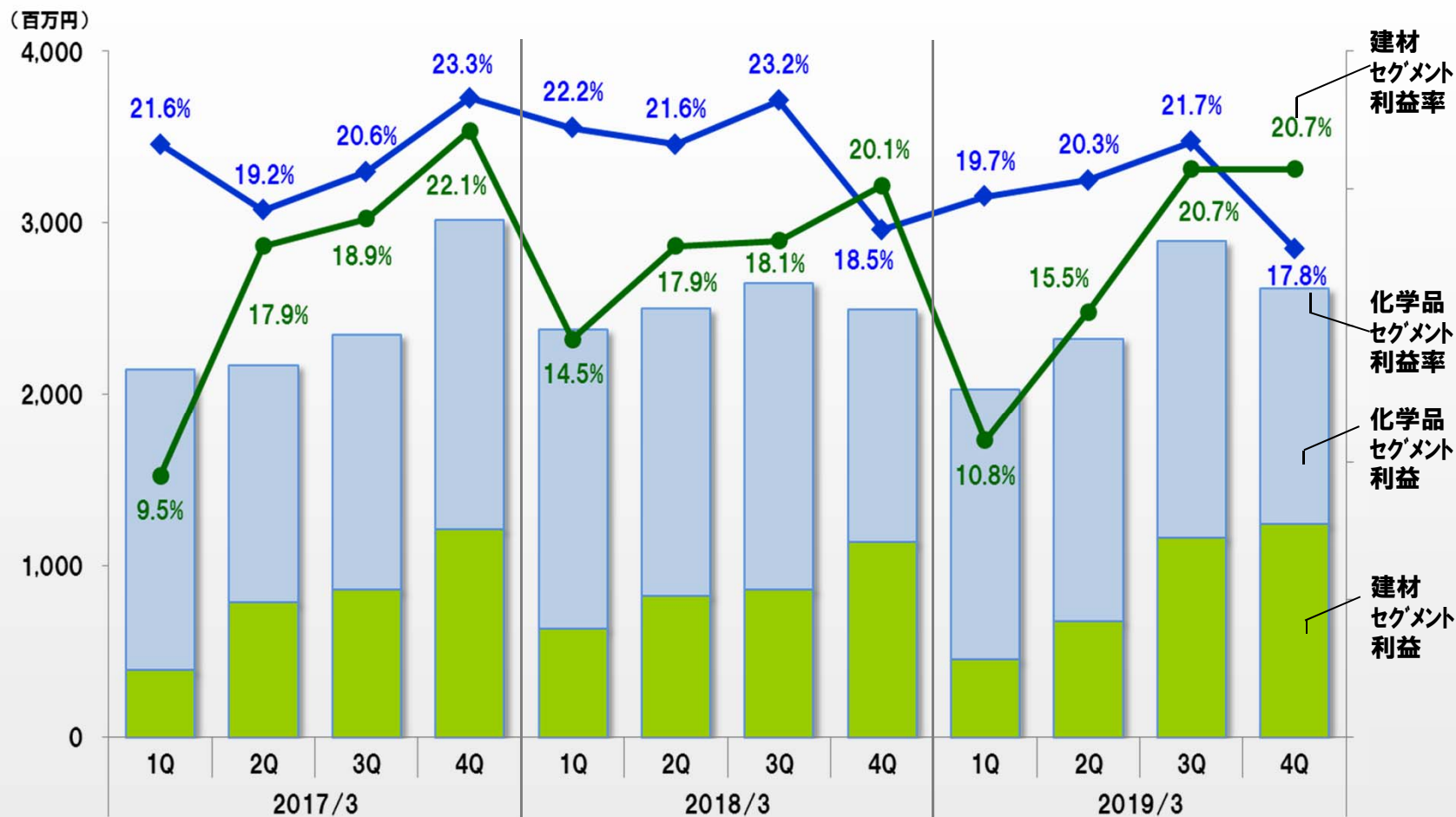
	2018/3	2019/3	増減	増減率
売上高				
化学品事業	30,701	31,879	1,177	3.8%
建材事業	19,376	20,124	747	3.9%
セグメント利益				
化学品事業	6,573	6,338	▲ 234	▲3.6%
建材事業	3,449	3,527	77	2.3%

# セグメント別 利益推移 (連結・通期)



化学品売上高	29,752	30,769	30,325	30,701	31,879
建材売上高	18,647	18,792	18,468	19,376	20,124
化学品セグメント利益	5,217	6,580	6,439	6,573	6,338
建材セグメント利益	2,465	3,064	3,239	3,449	3,527

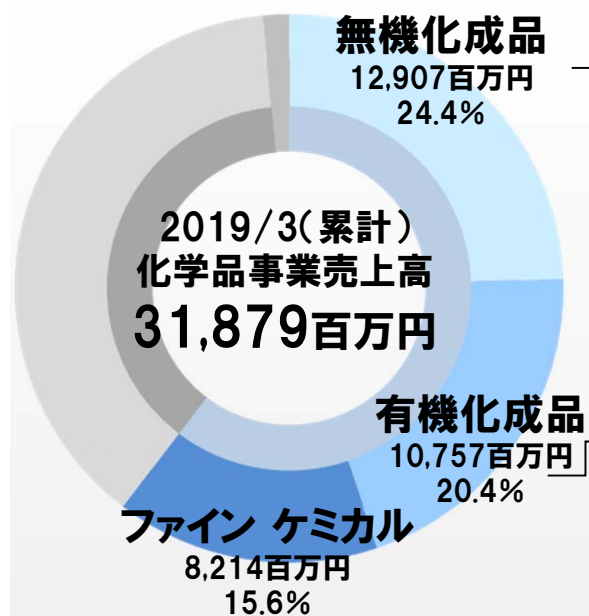
# セグメント別 利益推移 (連結・四半期)



化学品売上高	8,107	7,221	7,235	7,761	7,845	7,750	7,726	7,379	8,024	8,132	7,988	7,734
建材売上高	4,086	4,376	4,532	5,474	4,383	4,609	4,751	5,632	4,193	4,350	5,593	5,986
化学品セグメント利益	1,752	1,385	1,492	1,808	1,745	1,675	1,790	1,362	1,577	1,652	1,731	1,377
建材セグメント利益	389	785	857	1,207	633	823	859	1,133	452	673	1,160	1,241



# 化学品事業セグメント



## 【主要製品・用途】

- 不溶性硫黄  
ラジアルタイヤ用加硫剤
- 二硫化炭素
- 芒硝
- ソーダ灰



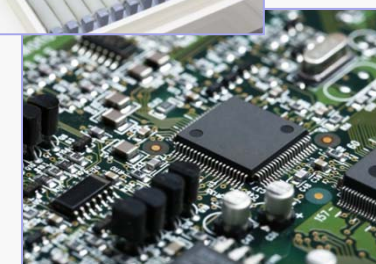
## 【主要製品・用途】

- シアヌル酸誘導品  
プール・浄化槽用の殺菌・消毒剤
- ハイポルカ

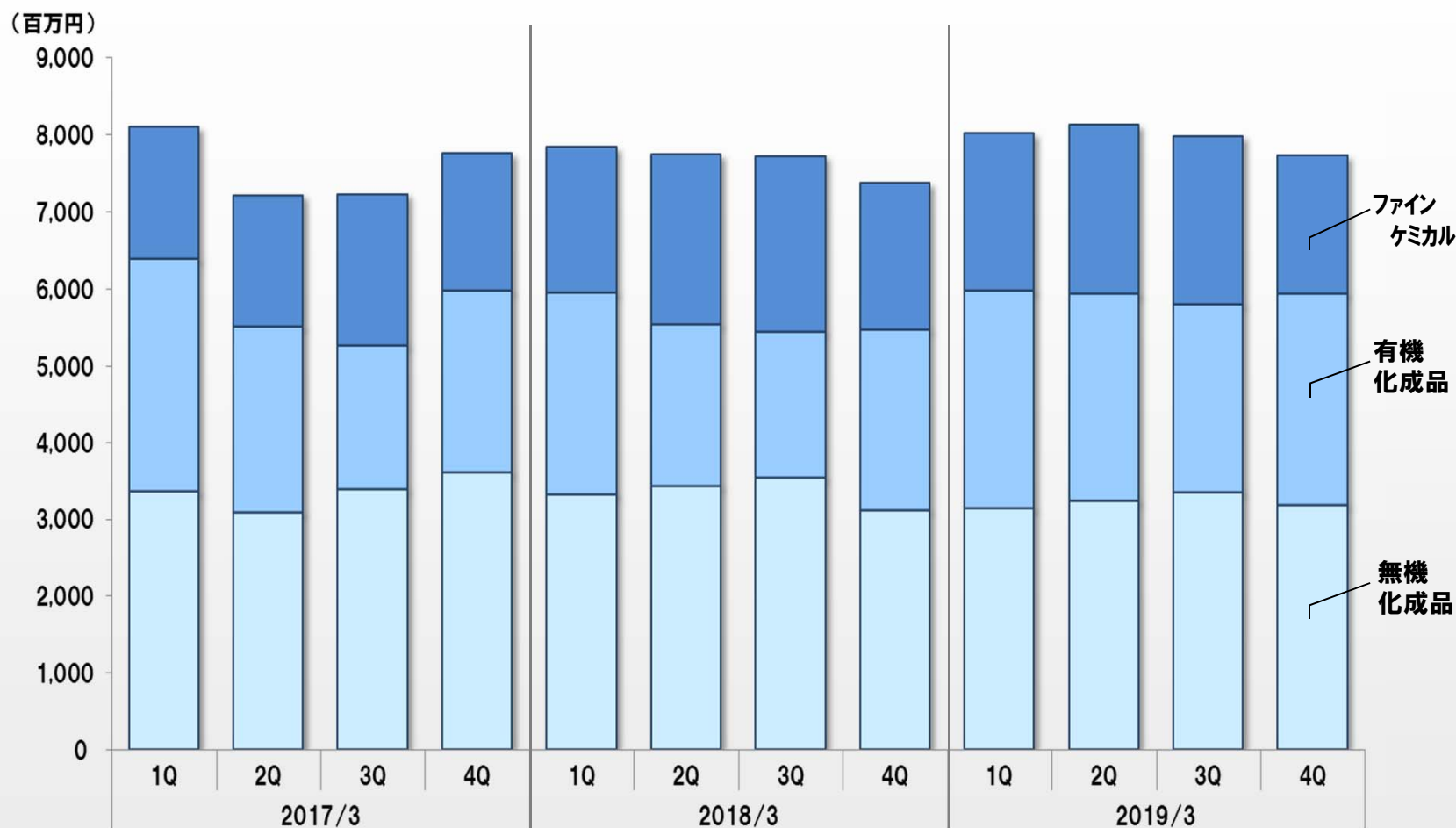


## 【主要製品・用途】

- タフエース  
プリント配線板の防錆剤
- イミダゾール類  
エポキシ樹脂の硬化剤  
機能材料、医薬品原料
- セイク
- インク類



# 化学品 部門別売上高推移 (連結・四半期)



ファインケミカル	1,719	1,713	1,962	1,783	1,888	2,202	2,283	1,910	2,044	2,190	2,188	1,790
有機化成品	3,029	2,430	1,891	2,375	2,636	2,126	1,900	2,358	2,839	2,707	2,450	2,761
無機化成品	3,357	3,077	3,381	3,602	3,320	3,420	3,543	3,110	3,140	3,233	3,350	3,183

# 建材事業セグメント

## 【主要製品】

- 住宅エクステリア
  - 門扉・フェンス・カーポート・アコーディオン門扉
- 景観エクステリア
  - 大型門扉・大型フェンス・通路用シェルター
  - 自転車置場・ゴミ集積庫・屋上緑化等

## 【主要製品】

- 内装材・外装材・舗装材

### エクステリア

18,367百万円  
34.8%

2019/3(累計)  
建材事業売上高  
20,124百万円

### 壁材

1,756百万円  
3.3%

## ■ 2019年新商品



「ファンルーフ」(テラス)

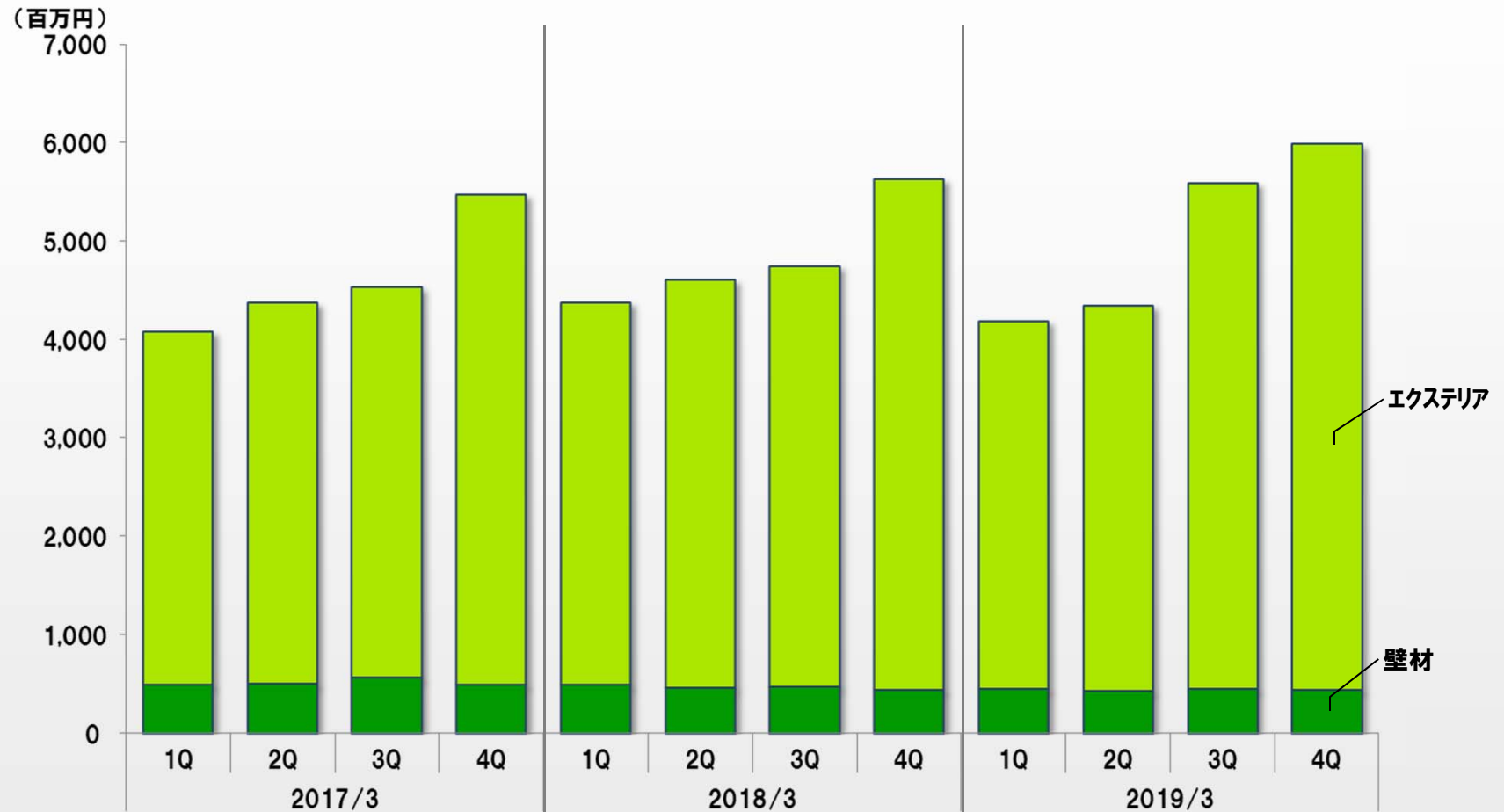


「アレグリアフェンスTM」(フェンス)  
「アレグリアTM袖門扉」



「マイルーフ7(セブン)」(カーポート)

# 建材 部門別売上高推移 (連結・四半期)



エクステリア	3,596	3,876	3,972	4,983	3,895	4,148	4,279	5,195	3,764	3,926	5,147	5,547
壁材	489	499	559	490	487	460	471	437	446	423	446	438

## 〔参考〕製品概要 ① 無機化成品

### ■ 不溶性硫黄

硫黄（化学式  $S_8$ ）を加熱、急冷し、 $(S_8)_n$ （ $n = 400 \sim 1,200$ ）となるように高分子量化した硫黄。不溶性硫黄はゴム分子を結合させる加硫剤として使われる高分子の硫黄で、現在タイヤの主流となっているラジアルタイヤの必須原料である。自動車用タイヤの製造過程では原料の混練り時に、ゴム分子を結合するために架橋剤を用いる。架橋剤には硫黄が使用されるため、一般には加硫剤と呼ばれる。この加硫工程を経ることで、ゴム本来の伸び縮みする性質（弾性）を持つようになる。

### ■ 二硫化炭素

硫黄と炭素を高温で反応させて作る化学物質。化学式  $CS_2$  主に化学繊維レーヨンやセロハンの製造工程で用いられるほか、ゴム薬や重金属固定剤、農薬の原料として使われる。



二硫化炭素（水没貯蔵）

## 〔参考〕製品概要 ① 無機化成品

### ■ 芒硝(ぼうしょう)

硫酸ナトリウムの別称。化学式 $\text{Na}_2\text{SO}_4$ で表される硫酸のナトリウム塩。

天然の温泉にも「芒硝泉」があるように、芒硝には温浴効果を高める働きがあることから、入浴剤の有効成分として使われる。また、粉末合成洗剤のビルダーや、染色助剤などにも使用される。乾燥硫酸ナトリウムなどと表示される場合もある。

2015年よりソーダ灰の本格販売を開始。

ソーダ灰はガラス原料のほか、合成洗剤や入浴剤の原料として使用されており、芒硝での販売ルートを活用する。



ソーダ灰

## 〔参考〕製品概要 ② 有機化成品

### ■ シアヌル酸誘導品(塩素化イソシアヌル酸)

各種工業薬剤の原料であるイソシアヌル酸に塩素を反応させて分離、乾燥させたもの。主にプールや浄化槽の殺菌・消毒薬剤として使用されている。主力市場は家庭用プールが普及している北米。

1964年（昭和39年）に、独創的な製造技術により国内で初めて量産化に成功し、徳島工場（北島事業所）にて生産を開始した。その製法は、1971年（昭和46年）に生産技術上の優れた発明に対して与えられる大河内記念技術賞を受賞した。



プール用殺菌・消毒剤  
「ネオクロール」

「船舶バラスト水規制管理条約」が2017年9月8日に発効となり、外洋を航海する船舶へバラスト水処理装置の設置が義務付けられた。当社は、バラスト水処理装置向けに、塩素系顆粒薬剤「ネオクロール マリーン®」の販売を開始し、世界の主要港(10港)で供給体制を構築している。

## 〔参考〕製品概要 ③ ファイン ケミカル

### ■ プリント配線板向け水溶性防錆剤「タフエース®」

パソコンやスマートフォンなどの電子機器に搭載されるプリント配線板に電子部品をはんだ付けするまでの間、銅回路部分を酸化から守り、良好なはんだ付け性を維持するための表面処理剤。

脱フロン、脱有機溶剤そして無鉛はんだ化への対応などの環境性能をいち早く採り入れ、この分野で世界トップシェア※1の地位にある。

※1 プリント配線板向け水溶性防錆剤において（当社調べ）



プリント配線板向け水溶性防錆剤  
「タフエース®」

### ■ イミダゾール類

イミダゾールとは5員環上の1,3位に窒素原子を含む含窒素芳香族複素環式化合物の一つ。化学式 $C_3H_4N_2$

イミダゾール化合物は、エポキシ樹脂の硬化剤、医農薬中間体、ウレタンの硬化触媒、銅の防錆剤、電解質などさまざまな工業分野に広く応用される。

当社は、イミダゾールで培った有機合成技術を強みとして、機能材料分野に進出。半導体等の先端分野において高付加価値材料の開発・拡販を進めている。



エポキシ樹脂硬化剤「キュアゾール®※2」

※2 キュアゾールはイミダゾール類における  
当社商標



## 〔参考〕製品概要 ④ 壁材(JULUX®)

### ■ 壁材

当社の壁材は主に砂、色土、けいそう土などの天然素材を主原料とした塗り壁（左官材料）である。日本の伝統的な壁である聚楽壁は施工する現場ごとに左官職人が材料調合と施工を行っていたが、当社の壁材はあらかじめ造粒・配合された材料に所定量の水を入れて混ぜるだけで均一な品質が保てる。

住宅の内装材は近年、工事が早いビニルクロスなどが主流になっているが、塗り壁は人にやさしく、シックハウス症候群の原因となる物質やニオイを吸着する性能が高いことから、改めて注目されている。

JULUX®（ジュラックス）は当社壁材製品の統一ブランドで、業界に広く浸透している。

<内装材>



けいそうジュラックス土壁

<外装材>



弾性パレットクリームHG

<舗装材>



リンクストーンF

## 〔参考〕製品概要 ⑤ エクステリア

### ■ エクステリア

エクステリアは一般にインテリア（内装）の対義語として用いられる。居住、生活する建物の外にある構造物全体をさす言葉で、門、車庫（カーポート）、フェンス、塀などが該当する。また、公共の外部空間で使われる資材製品なども含む。

1971年（昭和46年）、当社は伸縮機構で簡単に開閉でき、狭小な宅地事情に応えた「アコーディオン門扉」を考案、車庫前門扉のスタンダードとなった。その後、一般門扉、車庫（カーポート）、フェンス、また、デッキ材やテラスなどに商品ラインナップを強化していった。2012年（平成24年）にはアルミフレームと化粧材を組み合わせたアルミシステム塀「アートウォール®」を業界に先駆けて開発。高い意匠性ととも、特に倒壊など万が一の際の安全性で注目を集めている。

また、機能を重視しつつデザインにも注力しており、1984年（昭和59年）エクステリア業界初の「Gマーク」（現在のグッドデザイン賞）を獲得した。

当社では、一般住宅向けの門扉、カーポート、フェンス等を「住宅エクステリア」、公共施設、マンション等向けの大型門扉、フェンス、通路用シェルター等を「景観エクステリア」と分類している。

#### <住宅エクステリア>



アコーディオン門扉



車庫（カーポート）



アルミシステム塀  
「アートウォール®」

#### <景観エクステリア>



通路用シェルター

## 〔参考〕中期経営計画2019 ① 目指す企業像

### 理念

独創性

私たちは  
常に独創性を重んじ、  
これを会社発展の原動力とする。

四国化成は「日本再建ノ鍵ハ化学ノ振興ニアリ」との「純粹ナル情熱」※1に燃える若者たちによって設立された。「当社ハ従来ノ製造方法ヲ改善シ、石炭加熱法ヲ改メ当社独特ノ考案ニ係ル特殊電気炉ノ装置ニヨリ生産費ノ低下ヲ図リ...」※2と謳われているように、二硫化炭素の製法革新を会社存立の端緒とし、爾来、研究開発や製造技術の独創性を基に数多くの製品を世に送り出してきた。

独創性を会社発展の原動力として邁進する発想と行動力は、我々も実践し、次代にも受け継がなければならない。

※1 会社設立趣意書 1947年 ※2 会社設立認可申請書 1947年

### ビジョン

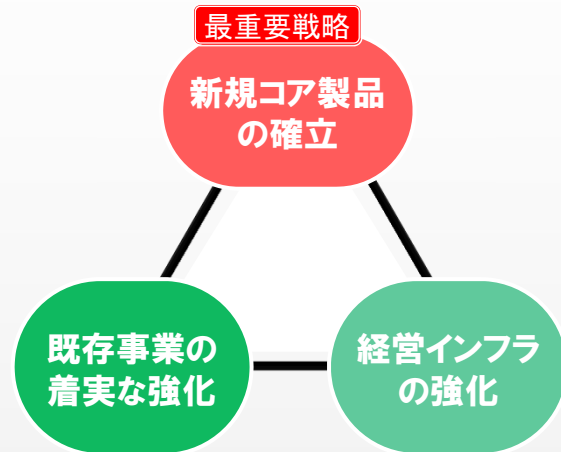
豊かで輝く企業、  
小粒でも世界に通用する企業集団となる

### 経営基本方針

コア・コンピタンスに基軸を置いた事業運営  
イノベーション重視の攻撃的なグローバル・ニッチ企業志向

# 〔参考〕中期経営計画2019 ② 全体像

真のグローバルニッチ企業として徒に大なるを求めず、強靱で筋肉質な企業になることを目指します。



## 1. 新規コア製品の確立を何よりも重視する

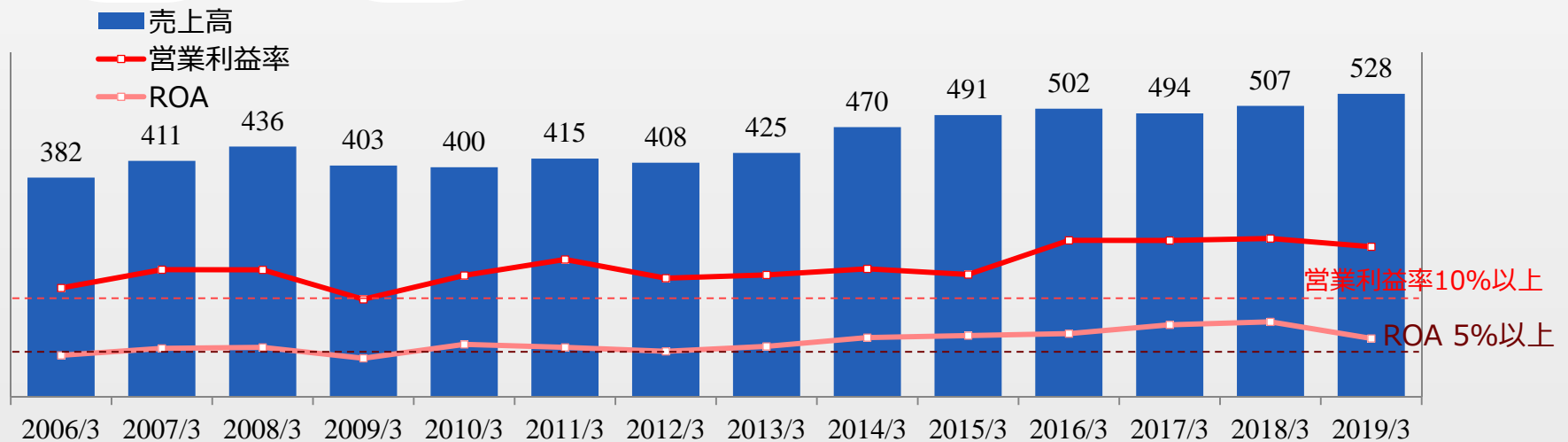
将来の収益の柱となる製品を集中的に育て、企業価値を向上させる。

## 2. 基盤である既存事業の着実な進化

長期的な展望と緻密で実効性の高い戦略から事業の進化を図る。収益源となるまで時間のかかる新規事業の財務的な基盤とする。

## 3. 経営インフラの強化

経営インフラを強化することで、事業戦略を支える推進力とする。



SSS → New SSS → SSS over the 500 → 中期経営計画2019

# 〔参考〕中期経営計画2019 ③ 新規コア製品 取り組み状況

新規コア製品：将来的な収益源となる製品(群)。集中的に育成する製品として社内ルールに基づき明確に設定。

## 機能材料製品群

高い有機合成力を活かして開発した新規物質で、最先端の電気・電子材料を高機能化



- 樹脂製品の高機能化に貢献するグリコールウリル誘導体など、先端領域における高付加価値材料等の開発を続けている。
- プロジェクトチームを組織し、スピーディな製品立ち上げへとつなげている。
- 新たな案件での評価機会も増えており、今後の需要拡大に対応するため、新プラントの建設を決定。

## 密着性向上プロセス GliCAP®

銅表面を粗化することなく、化学的に銅と樹脂の密着性を向上させる



拡充したGliCAP 処理設備

- GliCAP処理設備を拡充し、顧客ニーズに応じた技術サービスを強化。
- 5G向けプリント基板用途での評価が進んでいる。
- 顧客や周辺材料メーカーとの連携を強化し、本格採用に向けスピードアップを図っている。

## バラスト水処理装置向け薬剤 ネオクロール マリーン®

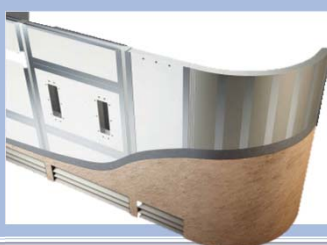
船舶のバランスを保つバラスト水の放流による生態系の破壊を防ぐ塩素処理剤



- 2017年9月に、外洋を航海する船舶へのバラスト水処理装置搭載を義務付けるバラスト水管理条約が発効。
- 世界主要港（10港）に薬剤配備が完了し、供給体制を整えた。
- 今後の需要拡大に対応するため、新プラントの建設を決定。

## アルミシステム塀 ArtWall®

安全性の高い軽量のアルミ構造体と化粧材を組み合わせた新たなコンセプトの外塀

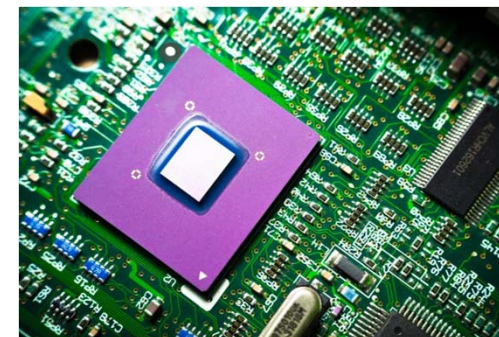


- 安全性、施工性、意匠性に優れ、従来のコンクリートブロック塀に代わる商品として、新たな事業領域を開拓する。
- 大阪府北部地震を発端とし、国や全国の地方自治体で危険な塀の撤去・改修の予算化が進められている。
- 安全に暮らせる街づくりに向けて、防災・減災の提案活動を強化。

## 〔参考〕中期経営計画2019 ④ 経営資源投下 取り組み状況

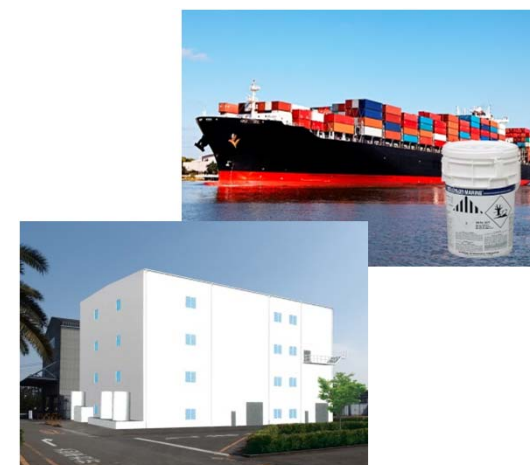
### 徳島工場北島事業所にファインケミカル マルチプラントを新設

- ▶ IoT時代の到来から、半導体の需要が高まっている。
- ▶ 半導体プロセス材料などを製造開発するメーカーから、高品質で高機能な材料に対するニーズが拡大している。
- ▶ 最先端半導体プロセス材料などに向け、低金属管理などの高い品質に対応した設備を持つプラントの新設を決定。
- ▶ 2020年2月着工、2021年7月竣工予定。



### 徳島工場北島事業所に塩素化イソシアヌル酸 新プラントを建設

- ▶ 世界では、船舶の往来によるバラスト水によって、水生生物の越境移動による生態系への影響が深刻化。また清潔な水の確保が困難な地域も多く、水の衛生環境の改善など、社会課題の解決も求められている。
- ▶ 水環境改善など、塩素化イソシアヌル酸の更なる需要拡大に対応するため新たなプラントの建設を決定。
- ▶ 2020年8月着工、2022年7月竣工予定。



## 〔参考〕中期経営計画2019 ⑤ 総括

### ■ 「中期経営計画2019」の総括

中期経営計画2019では、次代を牽引する「新規コア製品」の確立を最重要課題に掲げてきた。化学品事業ではバラスト水の塩素処理剤「ネオクロールマリン」や最先端の電気・電子材料の高機能化に貢献する「機能材料製品群」、そして5G（第5世代移動通信システム）時代の業界標準を目指す電子化学材料「GliCAP」など、取り組みの成果は着実に上がり始めている。また、建材事業では市場ニーズを先取りする独創的な商品をはじめ、高付加価値商品を継続的に投入することで、適正な利益水準の確保を前提とした事業規模の拡大に取り組んでいる。

戦略投資の面では、ファインケミカルマルチプラント、塩素化イソシアヌル酸のプラント新設を決定し、更なる拡販、需要対応、グローバルな事業展開が可能となった。

また、様々な情報インフラの導入・更新により、効率的な営業活動を支援する経営インフラの強化に努めた。2019年度も新規コア製品の成長、定着を確固としたものとすべく、同計画の目標を継続して推進する。

### ■ 2030年を見据えた長期ビジョン

今後、さらなる持続的な成長を目指す上で、中期経営計画では描き切れない、より長期的な視点からの成長戦略を定めた長期ビジョンを策定している。2030年近傍で当社グループが「ありたい姿」を設定し、そこに至る道筋となる全社戦略や事業戦略をバックカスティングの手法でさだめることにより、「全員参加型」による「積極経営」を進めていく。

当社理念である独創力のもと、常に高みを目指し、世界に誇れる企業を目指していく。

## **お問い合わせ先**

**四国化成工業株式会社 経営企画室**

**TEL:0877-21-4119**

**FAX:0877-22-4119**

**[www.shikoku.co.jp](http://www.shikoku.co.jp)**

### **【本資料に関する注意事項】**

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現在入手している情報や予測に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

また、本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり売買の勧誘を目的としたものではありません。当社では投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。